

推進校は、生活科における継続的な動物飼育に係る指導方法を開発する等、生命の尊さを理解させ、動物愛護の心を培う体験活動に取り組んでいます。体験活動の実施に当たっては、学校担当獣医師から支援を受けています。



実践事例

渋谷区立幡代小学校

【実践の概要】

2年生は、昨年の経験を踏まえて、うさぎの世話の仕方を1年生に伝えるという学習をします。

まずは、2年生が作った1年生へのプレゼンを獣医師に聞いていただきます。アドバイスしていただいたことを基に修正し、今度は実際に1年生へプレゼンを行いました。



写真を見せながらうさぎの世話について説明をする2年生と、じっくりと聞いている1年生

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

2年生は、獣医師に質問をしたり、本やインターネットなどでも調べたりしながら、2匹のうさぎの性格や食べ物、ふれ合い方などについて学びました。

発表したことを1年生に聞いてもらい、さらに獣医師から講評していただきました。また、1年生からの質問に対してフォローしてもらったところで、1年生にとっても2年生にとっても、考えや思いが深まる活動となりました。



1年生に、うさぎの抱っこのかたを教える2年生

【児童の反応】

2年生の各グループが、動画や写真、紙芝居、クイズ、ミニ劇など様々な方法で、工夫して楽しく発表することができました。獣医師から発表内容をほめていただき、自分たちの取組に自信をもつことができました。



実践事例

中野区立上鷺宮小学校

【実践の概要】

○第2学年を中心に、全3クラスでモルモットの飼育に取り組みました。モルモットの生態について、図書やタブレット、担当獣医師の講話などを基に資料を作り、1年生に向けた発表を行いました。



第2学年教室での触れ合いの様子

○飼育委員会児童が中心となり、モルモットとの「触れ合い体験」を実施しました。膝の上に乗せての餌やり体験や、写真撮影なども同時に実施することでたくさんの児童が参加しました。

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

○子供たちが学校担当獣医師から、モルモットの生態について御指導をいただくと共に、モルモットの飼育について知りたいことや、どのようなことに注意しなければならないかを質問し、お答えいただきました。モルモットの飼育では、年度当初に全ての保護者にアレルギーについてのアンケートを実施し、安全面にも配慮しました。

【児童の反応】

○モルモットの飼育を通して、全ての生き物の「いのち」について考え、責任をもって飼育や栽培に関わる児童が増えました。
○日々の飼育作業をより効率的に行うためにどうすればよいか考える機会が増え、様々な活動において計画的に作業に取り組む児童が増えました。



実践事例

八王子市立宇津木台小学校

【実践の概要】

- 第1学年及び第2学年において、2学期に犬との「動物ふれあい体験」を行いました。
- 第6学年において、2月に学校担当獣医師から「動物とかかわる職業」について学ぶキャリア教育を行いました。



犬とのふれあい体験の様子

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

- 学校担当獣医師からは、クイズ形式で動物の耳、目、鼻、口、歯についてその特徴を教えてくださいました。
- 「動物ふれあい体験」では、小型犬や大型犬など4頭の犬と実際に触れ合い、お菓子をあげたり抱いたりして親しむことができました。



第2学年 学校担当獣医師から動物についての話を聞く

【児童の反応】

- 生き物に触れ合う体験の少ない児童が多いため、実際に生きている動物と触れ合うことで、生き物の温かさや柔らかさを体験し、喜びを感じることができました。
- 命を大切にしようという気持ちが高まり、飼育小屋にいるウサギが元気かどうかを今までよりも頻繁に観察に行ったり、気にかけてたりする場面が見られました。



実践事例

青梅市立第七小学校

【実践の概要】

第1学年…ウサギと自分たちの心音を比較する触れ合い授業

第2学年…ウサギの生態に関する授業とウサギと自分たちの心音を比較する触れ合い授業

第3・4学年…ウサギの生態に関する授業とウサギと自分たちの心音を比較する触れ合い授業

ウサギと犬に触れ合いながら、様々な動物の「命」を感じる触れ合い授業

理科「私たちのからだと運動」の学習内容と関連させた話及び触れ合い体験

第5学年…ウサギの生態に関する授業とウサギと自分たちの心音を比較する触れ合い授業

理科「命のつながり」・「体のつくりと働き（6年）」の学習内容と関連させた話

第6学年…理科「かけがえのない地球環境（SDGsに関すること）」の学習内容と関連させた話

獣医師という仕事を通して、夢や仕事など自己のキャリアについて考える話



左の写真は犬の心音を聴く様子

右の写真はウサギの心音を聴く様子



【学校担当獣医師や保護者等との連携】

- ・最初の学校担当獣医師との打合せの時に、昨年度の計画を修正し、全学年で実施しました。
- ・授業計画を立てる際に、「ウサギの体のしくみ（歯、耳、目、尻尾、寿命）」や「ウサギの生活（食べ物など）」について、学校担当獣医師からお話いただいた後に、ウサギの心音と人間の心音を比べる、命の授業（触れ合い体験）を行うことをベースとすることを確認しました。さらに、各学年に応じた他教科等との学習内容と関連させ、ウサギとの触れ合い体験を「活かす授業」となるように工夫しました。

【児童の反応】

- ・ウサギの心臓の音は、自分の心臓の音よりもすごく速いことが分かった。
- ・学校のウサギも、元気な時の様子を見ておくと、病気になった時に気が付けることが分かった。
- ・ウサギの血管がはっきり見えて、ウサギも人間と同じように血液が流れているのだと思った。



実践事例

小平市立小平第九小学校

【実践の概要】

昨年度から継続で、以下の活動を行いました。
○第1学年で「ふれあい教室」を行いました。
○第2学年は飼育環境についての調べ学習及び獣医師・1学年への発表を行い、飼育体験につなげました。



獣医師の指導による「ふれあい教室」の様子

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

- 第2学年は学校担当獣医師の御指導の下、飼育方法・飼育環境についての調べ学習、第1学年への発表を経て、実際に学級でウサギを招待して飼育体験をする取り組みを行いました。
- 第1学年は本校にいる動物（ウサギ、カメ、ウズラ、モルモット）の生態について学校担当獣医師の講話及び2学年による発表を聞くとともに、「ふれあい教室」を経験したことで、次年度のウサギの飼育への見通しをもつことができました。
- 1学年の「ふれあい教室」では保護者への参加を呼びかけ、親子で動物飼育への理解を促進しました。

【児童の反応】

- 動物について調べ学習を進めて行く中で、もっと知りたいという気持ちから、児童たちは学校担当獣医師へ質問を繰り返していました。
- 特に第2学年において、学習を経たことで身近な虫などの命を大切にしようとする様子が見られ、明らかな態度の変容が複数の児童から見られました。